

## 八尾市総合計画審議会 部会長副部会長調整会議 議事録

日 時：令和2年1月21日（火）19時00分～21時10分

場 所：八尾市役所 6階大会議室

出席者：熊本委員（第3部会・副部会長）、清水委員（第2部会・部会長）、田中委員（副会長、第1部会部会長）、農野委員（第1部会副部会長）、初谷委員（会長、第3部会・部会長）、和田委員（第2部会・副部会長）

事務局：政策企画部（総合計画策定プロジェクトチーム、政策推進課）

欠席者：なし

### 1. 開会

### 2. 議事

#### （1）専門部会ご意見に対する行政素案の修正について

#### 初谷会長

政策の問題の指摘に対しては削除したということでしたが、どこを見ればよいですか。

#### 事務局

政策については、7、8、9ページの目標1から6の表題をまちづくりの目標とし、文章をまちづくりの取り組み方向とし、まちづくりの取り組み方向を政策と位置づけて進めたいと考えています。

#### 初谷会長

ただ今のことが、資料3の1ページの「施策の体系」で、表現できるのですか。

#### 事務局

資料3の1ページには「政策」という記載はありません。ここに入れるとすれば、文章では難しいため、まちづくりの目標の下に欄を設けて取り組み方向を記載し、それが政策であることを表記することが考えられます。

#### 初谷会長

内容は後ほど、再度確認します。

## (2) 八尾市第6次総合計画(素案)について

### <2-1 基本構想について>

#### 初谷会長

各部会のご意見の紹介をお願いします。

#### 田中副会長(第1部会)

第1部会は先週、第3回目の部会が終わったばかりです。資料に沿ってというより、どのような意見があったかを紹介します。

『幸せ』という文言がかなり抽象的なため、どのように扱って書き込んでいくかが難しい」という意見がありました。特に、従前の書きぶりでは、「個人の幸せがクローズアップされているため、全体の幸せを追求できることが感じられる書き方ができないか」というのが大きな意見の1つです。

同様に言葉の扱い方として、『成長』というキーワードについてです。成長に対する第1部会の各委員のとらえ方は、「かつての右肩上がりの経済成長や人口増加も大切なことだが、経済的な指標で測ることができない、つながりなども含めた成長を考える必要がある」ということでした。また、「成長という言葉を別の言葉で置き換えられないか」という議論もあり、深めていくという意味で、「深化」という言葉はどうかという意見がありました。

全体的なことですが、市民に伝わってこそその総合計画です。10年後、20年後を担う子どもたちに分かるものになっているかという観点で見ると、「行政用語などの専門用語がかなり散りばめられて、横文字も多いため、ブレークダウンした書き方の工夫が必要」という意見がありました。

主語が明確になっていないところがあるため、「想定される主体を書き込むべき」、「書きぶりがポジティブかネガティブかによって、市民のとらえ方が違ってくる。ネガティブな表現で書き過ぎたり、課題を連ね過ぎると、とらえられ方が間違った方向にいくのではないか」という意見もありました。

「SDGsの理念が、表面を押さえるだけでなく、きちんと組み入れられているか、深められているか」という意見もありました。目標期間を8年後としているため、「8年後を想像できる表現も大切」という意見もありました。

大きな話として、「子どもがいない人も地域コミュニティと関わりを持って、つながっていく。そのような人がウエイトを占めていくと思われる中、子どもを媒介としたアプローチやストーリーの立て方では難しい面が出てくる。そのような人を巻き込んだ課題解決も重要」という意見がありました。

将来都市像が「つながる、つづく、かがやく」と、動詞であることへの違和感も示されましたが、今回の修正案ではそれが少し改善されたと思います。

農野委員から「市民がわが事として共同で責任を負い、価値観が多様化している中で、最低限の価値を共有しながら関わっていく風土が必要になっていくだろう」ということで、

「社会的結束」や「集団的責任」という概念を紹介されました。そこまでストレートに書いてしまうと市民の抵抗感が強くなる可能性があるが、本質的なことは、そのようなことではないかと思います。一人ひとりの思いや考え方が多様化していることは尊重すべきことだと思いますが、地域の課題を解決していくためには、結束、連帯が必要です。そのときには、最低限のめざすべきものを共有することが必要です。めざすべき共有する言語は、SDGs的なものと理解しています。その辺りが総合計画全体から感じ取れるものにならなければならないというのが、第1部会のまとめです。

## 初谷会長

素案にまとめるということなので、あえて第1章、第2章、第3章という順番で承認を得るというやり方は取っていません。各部会で、全体的なことについてどのような議論があったか、その議論の結果、修正を求めたことに対して、どこまで修正され、どこがまだ踏み込めていないか、ここが課題、など全体を一覧する形で伺いたいと思います。

第1部会の件で、農野委員から補足することはありますか。

## 農野委員

田中委員の説明で理解いただけたと思います。

第1部会で議論しながら感じたのが、「丁寧な説明が必要」ということです。各委員それぞれの立場から、あるときはミクロ、あるときはマクロと、様々なレベルで意見をいただきました。協働、共生、共創などの価値は共有できたと思います。ただし、各委員の関心、興味、感性も様々、多様だったため、市民に向けては、なおさら丁寧な説明が必要という印象を受けました。

7ページからの目標1から目標6について、先ほど事務局から「すべての目標の中に、理念と課題と取り組みの方向性、あるべき姿の3点で書いている」という説明がありましたが、理念、課題、取り組みの方向性、あるべき姿を段落で分けているのであれば、そのことがわかるように書き込めば、かなり読みやすくなると思います。

将来都市像の目標が対応している表が第6章にあります。参考資料の各施策にも、右上か欄外のどこかに、「将来都市像のまちづくりの目標1に対応している」などを書き込めば、分かりやすくなると思います。

## 事務局

最終的に冊子にまとめるときには、見開きで左右2列ずつにレイアウトしたほうが本の体裁としてよいと考えました。その結果、関連するまちづくりの目標は、「めざす暮らしの姿」の下になってしまい、分かりにくくなってしまいました。枠を入れるなど目立つように工夫します。

## 初谷会長

レイアウトの見やすさは、後の段階でも手を入れられると思うため、そのようなご意見もお願いします。

## 清水委員（第2部会）

まず全体についてお話ししますので、基本構想に関わらない点もあるかもしれません。第2部会の委員の中には、銀行などの企業の方がおられるため、地域企業の位置づけのご意見が多くありました。「市民」が主語の文章になっているため、「企業などはどうすればよいか」、「企業も主体であることが分かりにくい」という意見がありました。「市民」の定義が明示されており、説明を聞けば分かるのですが、そのような意見がありました。「外国人への目配りが足りない」という意見もありました。外国人も市民の中に含まれるというとらえ方もできるかもしれませんが、「八尾市に外国人の方が増えているという現状を踏まえると、目配りが必要」という指摘がありました。

災害時の体制や対応については、各計画のほうになるかもしれませんが、現状を考えると、「まず大きなところからも防災、災害対策について何らかのメッセージがほしい」というご意見でした。

参画を広げる方向として、意見の集約の仕方についての意見がありました。具体的には基本計画の第5章になりますが、「実践の内容」の「広く市民から意見を募る」方法として、「ITの導入や新しい技術を踏まえた集約があるのではないか」という意見がありました。以上が、大きなところです。

個別の細かいところでは、先ほど田中優委員からもあった、第1章にある、キャッチコピーについてです。今回「つながり、かがやき、しあわせつづく」と改められていますが、もともとの案である「つながる、つづく、かがやく」の言葉の順序について、「つながって、かがやくから、つづくのではないか」という指摘がありました。それを受けて今回修正されたものと思います。

まちづくりの目標3は、以前は「活気にあふれ、誰もが誇りをもち活躍できるまち」でしたが、今回「世界に魅力が広がるまち」と修正されています。先ほど、第1部会から「内向きではないか」という指摘があったということですが、第2部会でも、「八尾は世界に誇れることをもっと発信したほうがよい」という広域的な視点についての指摘がありました。ここも、それらの指摘を受けて修正していただいたものと思います。具体的には、「八尾空港など、他市にはないものをもっとアピールすべき」という意見でした。

部会の第3回では、「まちづくりの目標5」の「つながりを持ち自分らしさが実現できるまち」については、「自分らしさ」が話題になりました。「総合計画の中で、『自分らしい』という個人が主役になる言葉が出てくるのは面白い」とよい評価だったため、この部分をもっと伝わればよいと思います。今の案では、『つながりをもつ』と、『自分らしさが実現できる』が2本立てになっているため、『つながりを持ち自分らしさが実現できるまち』は、で

できれば修正をしたほうがよいという意見が出たのですが、まだ変更はなされていません。

「もっと自分らしさをもてると、どのようになるか」を深めていただきたいという意見がありました。その際に、対案として、「つながりをもち自分らしさを尊重できるまち」が出されました。「実現できる」となると、「まちがよくなって、自分が実現できる」となって、ニュアンスが異なるのではないかということで、「自分らしさを尊重できる」というのはどうかということでした。

今回の資料ではなくなった「まちづくりの推進方策」の「(3) 幸せ成長のための都市づくり」は、ハード面が多いため、他の項目に散らばせたということでしたが、やはり位置づけや流れに違和感があるという指摘がありました。どのように散らばせたのかが読み切れていませんが、そのような指摘がありました。

第3章の10ページからの部分は、もともと(1)、(2)、(3)がありました。計画との連動性が悪いことから(3)がなくなったのは、第2部会としては評価できます。

私からは以上ですが、和田委員にフォローをお願いしたいと思います。

#### 和田委員

ただ今の清水委員の話ですべて網羅できているため、特に補足はありません。

第1部会の報告にも「丁寧な説明を」というのがありましたが、第2部会でも「言葉が分かりにくい」という意見がありました。われわれは専門用語やカタカナ言葉を普通に使っていますが、「市民向けのものなので、市民目線で書く必要がある」という意見がありました。

私がおっとも強調したいことは、清水委員が言われたように、「まちづくりの目標と取り組み方向」の目標1から6が非常に大事だということです。そのため、目標3が、かなりグローバルで積極的な文面に変わったことは非常によいと思います。清水委員が言われたように、目標5は「自分らしさを尊重できる」に変わっているかと思ったのですが、事務局のお考えが、やはり「実現できる」ということであれば、説明をいただきたいと思います。「実現」と言い切ってしまうと、どこまで実現できるかという問題になりますが、「尊重」であれば、一人ひとりの主観や思いで感じられます。ただし、文面はその辺りをかなり意識して表現されていると思います。

#### 初谷会長

内容面、形式面など様々な面についての意見を、要点をまとめて説明いただき、非常に分かりやすかったです。

#### 第3部会（初谷会長）

第3部会についてまず私から報告します。全体としては、昨年度のふりかえりや評価を踏まえた意見が多くありました。私からは3点紹介し、後は熊本委員にお願いしたいと思います。

1つ目は、言葉の意味についてです。八尾市独特の意味を用いているために、言葉についての議論が多くなってしまいました。これはよくありません。「誰が読むか」を考えると、普通に使われている意味を大切にしながら、その組み合わせで新しい概念を打ち出すほうがよいです。先ほど、「丁寧な説明を」とあったように、「実はこのような意味を込めている」と、かなり言葉を尽くさなければ意味がよく分からないのは問題だという印象を、議論の中で感じました。

2つ目は、将来都市像のフレーズについてです。第3部会では、ストーリー性について意見がありました。「なぜこのフレーズなのか」が、フレーズを分解することによって語れるのかという意見がありました。それは今回の修正で、ある程度改善されてきたと思います。

3点目です。昨年度の第5次総合計画の評価を踏まえて、第6次総合計画へという流れがあります。その間に市長の交代がありましたが、「八尾市が培ってきた地域のまちづくりにおける蓄積や、それをさらに広めていくうえで直面している課題をきちんととらえて表現してほしい」という意見がかなりありました。そのような意味では、今回の改善で、いろいろと言葉を尽くして、実績は実績とし、反省すべき点は反省して未来につなごう という姿勢が伺えるため、表現はかなりよくなったという印象をもっています。

## 熊本委員

まず1点目ですが、「しあわせ」について「今後これをどのように評価するのか」という評価指標についての意見がありました。それは質的なものなのか、量的なものなのか、今後総合計画を評価する指標として、「しあわせ」という多義的なものでどのように評価を行うのかという、指標に関する意見がありました。ある委員からは、「あらかじめ基準がある指標でなく、市民の活動から生まれて、可能性を広げていくような、積極的に意欲を伸ばすような指標が作れないか」という提案もありましたが、「難しい」ということで具体的な話までは至りませんでした。その辺りも大きなところだと思います。

先ほど会長が話された政策のことが第3部会でも話題に出ました。目標があつて政策があり施策があります。施策を評価して政策を議論します。今回は、その政策が取り組み方向という言葉として表現されていることを、本日初めて見ました。先ほどの説明でいくと、文章として書いているということですが、それは、聞かなければ分かりませんでした。10ページの図に目標、取り組み方向、施策がありますが、取り組み方向を市民が見て何を指しているかが分からないということでした。どのような取り組み方向なのかを見るには、どこを見ればよいのか、本日説明を聞くまで分からず、今もあまり分からないため、もう少し説明や議論が必要だと思います。

わがまち推進計画の位置づけについても、かなり意見がありました。わがまち推進計画を、第5次総合計画の成果や課題を踏まえて第6次総合計画でどのように位置づけ、評価し続けるかという点で考えると、わがまち推進計画は14ページには記載がありますが、「15ページにはなぜわがまち推進計画が出てこないのか、総合計画と一体ではないのか」という意

見がありました。14～15 ページでの、わがまち推進計画の位置づけについての意見です。

第6次総合計画では、「横断的」が大きく打ち出されていることの1つです。分野横断がどのような仕組みでなされるのか、政策立案はどのように進めるのか、進行管理の責任はどうするかなど、「横断的」に関する意見も出ました。

「しあわせ」もそうですが、「市民にとっての分かりやすさ」を追求すると逆に、言葉としては、分かりにくくなってしまっているのではないかと、具体的に書きながら表として分かりやすく、絵として分かりやすくしたほうがよいのではないかと思います。SDGsの魅力はそこにあったのだと思います。前文で理念をしっかりと書き込み、政策があり施策があり、あのイラストが生まれてきて、それが非常に汎用性を高めたのだと思います。分かりやすさを強調する中で、どこをどうとらえて分かりやすさととらえるかですが、委員の中では言葉に関して混乱してかなり時間を使い、もどかしさがありました。

## 初谷会長

各部会で議論になったことを総覧して、それがどのように反映されたかについては、短時間で見ているため、私個人としては詰めたところまではいっていない部分もありますが、以上が、部会長、副部会長からのご意見です。形式的な面についての指摘、内容に関する指摘もありましたが、ただ今のご意見を念頭に置きながら、最初から押さえていきたいと思いません。

1 ページの第1章「総合計画策定の目的」では、中核市とグローバルについて「このような考え方で第6次総合計画を策定する」ということを書き足していますが、この表現で伝わりますか。中核市とグローバルは、ここで使われるべき用語としての指摘でしたが、総合計画の基本構想として見た場合に、理解できるかどうかです。

まずは文章が長いです。市民が見ることを考えると、小見出しのようなものがあつた方が分かりやすいです。総合計画のいきさつから、中核市になったこと、検討してきた経過が書かれた後に、中段から後段にかけて将来都市像の説明があります。前回から明らかに変わったのは、「しあわせ」は法人も市民も含めたもので、主体が市民ということを明確に書き込んでいること、「成長」は都市の成長であり、人の成長は外しているという整理になっています。「都市が成長する」という形で整理されている印象をもっています。もともとは、しあわせに向けた取り組みのプロセス自体が成長ということが難しい表現になっていましたが、この部分は整理されています。

細かい修字については、後ほどの議論とさせていただき、第2章に移ります。

第2章「八尾市を取り巻く社会経済環境」で、人口、市民意識、地域コミュニティの問題が、社会経済環境として出てきますが、人口、市民意識、地域コミュニティというものでいかどうかなど、第2章についていかがでしょうか。

## 清水委員

「見出しが『社会経済環境』という割に経済的な視点が入っていない」という指摘がありました。ここに何を記載すべきかは難しいかもしれませんが、「社会経済環境」にも関わらず、「人口減少と少子高齢化の進行」、「安全安心な暮らしと健康への関心の高まり」、「地域コミュニティの変容」という構成に疑問があるという意見がありました。ただし、どのように修正すればよいかというところまでは至っていません。

「地域コミュニティの変容」の「変容」がここで適切なのかという意見もありました。「変容」は、もっとあり様が変わるものではないかという指摘です。ここで言いたいのは、変化や新しい形だと思います。「変容」が適切なのかという指摘がありました。

## 初谷会長

行政素案に、この3つが並んでいましたが、それをこのように書き分けています。「社会経済環境」という言い方はよく使いますが、ここには経済が入っていません。「八尾市を取り巻く」とあるので、八尾市の外部環境について述べようとしています。「八尾市」ということは、自治体、市民、住民が含まれます。市民意識の話が2番目に出てくるというのは、どちらかと言うと、内部的な、市を構成している人々にこのような意識の変化が見られるということで、それが果たして「取り巻く環境」なのか、と思います。内部、外部のどこに目線を置いているか、どこから見て取り巻いているかが分かりにくい印象があります。

第5次総合計画にもこのようなくだりがありますが、地域のところの問題は、今までの地域の実績が原案ではほとんど消え失せて、新たに大変な課題があるという書きぶりになっていることです。そうではなく、従来から地域の様々な大変な課題に対して、八尾市は真摯に相当取り組んできています。取り組んできたものの、なお残っていて直面している課題に、今後も八尾市は真摯に取り組むという順序だと思います。取り組んできた経過に沿ってきちんと書くべきという意見がありました。これについては、一定の修正がされていますが、指摘のように、表題が「変容」でよいかという疑問はあります。

それでは、第3章も含めてご意見をお願いします。

このキャッチフレーズを素案としてよいかどうかです。その下にある説明もかなり丁寧に書き直していただいています。田中優副会長からの、「個人的な『しあわせ』ではなく、『しあわせ』の概念がもっと広がったものが必要」というご意見に対して、きちんと答えたものになっているのでしょうか。そのような目線で吟味してご意見をお願いします。

議論のきっかけとして事務局にお聞きしたいのですが、「つづく」は何が「つづく」と理解すればよいのでしょうか。「しあわせ」だけですか。

## 事務局

ここでは、市民一人ひとりの「しあわせ」だけでなく、社会全体の「しあわせ」を考えて行動することが大事という方向に修正しました。自分の「しあわせ」も大事ですし、社会全体の「しあわせ」も大事です。自分の「しあわせ」もつづき、社会全体の「しあわせ」もつ

づいていく八尾市をめざすということです。「しあわせがつづく」という部分を強調したいという意図があります。

#### 初谷会長

以前の案である「つながる、つづく、かがやく」の順番から、「つながって、かがやく、そのことがしあわせであり、そのしあわせがつづく」という流れになってよかったというよい評価がありますが、「しあわせつづく」だけでよいかという気がします。いかがでしょうか。つながったり、かがやいたりすることそのものも、づいていくことが読み取れるようにしなくてよいでしょうか。

#### 事務局

「しあわせがつづいていく」の前提条件として、皆がつながりながらまちを作っていくこと、様々な個性をもつ多様な市民がかがやいて活躍する八尾というのがあり、それがしあわせにつながります。また、それが一過性のものではなく、つながってかがやくことで、しあわせがつづいていくことが、八尾のめざす姿であることを表したいと思っています。

なぜしあわせと感じるかと言うと、つながってかがやくからこそです。その状態が続いてほしいというストーリーを組み立てました。つながり、かがやくからしあわせになるという書きぶりが足りていないのであれば、補足しなければなりません。それが読み取れないということでしょうか。

#### 初谷会長

もともと事務局で行政素案を作る際に、若手職員の方々が議論して集約したキーワードで、大切にしたいものが、「つながる、かがやく、つづく」の3つということでした。「しあわせ」はそれをまとめた形で、後から出てきた言葉です。それが、「しあわせつづく」と、しあわせだけが「つづく」というキーワードに制約してよいかです。もっと様々なことが「つづく」ことを庁内で議論されたという説明だったと思います。5ページでは「しあわせつづく」と1つの単語のように扱っているため、確認のため聞いています。

#### 事務局

若手職員も十分許容できる範囲だと思います。このような書きぶりであれば、若手職員が、自分たちが考えた言葉が、将来都市像の中にしっかり活かされていると受け止めてもらえるという想いです。またストーリーが大事という観点から、このような書きぶりとなりました。

若手職員の議論の中で出ていたのは、「人と人とのつながりがまちづくりに大事」ということです。「かがやく」は、八尾に住んでいただいたからには、自分の個性を活かしながらかがやいて活躍していただきたいということです。「つづく」は、八尾のまちがずっと続いてほしいという想いがあります。小さい時から生まれ育ち、市外に出ても帰ってきてまた八

尾のまちに住んでいただくことがつづいてほしいということから、「つながる、つづく、かがやく」が出てきました。昨年度、意識調査でしあわせに関する設問を設けたり、八尾市の方針として、成長も取り入れたいということがあったため、「つながり、かがやき、しあわせつづく成長都市 八尾」としました。ワーキングでは、そのような意味で「つながる、かがやく、つづく」を考えていました。

### 清水委員

説明を聞いて、「しあわせつづく」は、「すべてのしあわせがつづく」であることが、意味としては分かるのですが、言葉として見たときに、「しあわせつづく」だけ2つの言葉になっています。行政素案を見ているからかもしれませんが、行政素案は、「つながってかがやいてつづく」と、それぞれの言葉がつながっていますが、今回は「しあわせつづく」だけ具体的な印象があり、「つながり、かがやき」との重みの違いを感じます。キャッチコピーの中で、「つながり、かがやき、しあわせつづく成長都市」までが1つの単語のように読めてしまいます。3つの言葉を押したいのか、「つながってかがやいてもらうことでしあわせがつづく成長」という風につながるかで、ニュアンスが違ってくるという印象があります。説明を聞くとなるほどと思うところもありますが、最初にいただいた案とは意味合いが変わってきているという感想をもっています。

### 初谷会長

あまりよいアイデアが出ないのですが、記号で表して、「つながり」をA、「かがやき」をBとして、両方をカッコでくくって、掛け算で「しあわせ」がCです。CはC1、C2、C3とずっとつづいていくように読めます。つまり、つながるしあわせと、かがやくしあわせがつづいていくと読みました。しかし、清水委員が言われるように、「しあわせつづく成長都市」は、2行になっていますが、「しあわせつづく」の後に「、」が入っていないため、「しあわせつづく成長都市」という一つの意味合いを持たせているように読めます。「つながること」、「かがやくこと」の2つのことが、しあわせにつながって、そのしあわせがつづいていく、つづいていくことによって、都市が成長するという順番を書こうとされているなら、「しあわせつづく」の後に「、」が必要です。キャッチフレーズとして、「、」の位置にこだわりすぎるのもどうかと思いますが、「しあわせつづく成長都市」というキャッチフレーズなら、説明のほうも、「しあわせつづく」と「成長都市 八尾」が分けているのは、段階が違うのではと思いました。

### 事務局

ストーリーを考えるうえでは、4つに分類してストーリーを立ててからつなげたほうが伝わりやすいということで、もともと、7つの言葉だったものを4つに固めて説明することにしました。確かに、「しあわせつづく」の後に「、」がなければ、「しあわせつづく成長都

市」と読めてしまうので、事務局の意図とは異なってきます。

#### 初谷会長

しあわせと成長の関係ですが、他の自治体では、成長には、経済的成長の意味合いを込めて使い、精神的なしあわせと対比する例をよく見ます。段落が分かれているのであれば、清水委員が言われたように、「しあわせつづく」と、経済的な成長も含めた都市の成長との関係の説明が必要です。

#### 清水委員

「、」を入れれば4つの言葉になりますが、それでよいかどうかです。「つながり、かがやき、しあわせつづく」の3つが並列だと思います。「つながり、かがやき、しあわせつづく」があって成長するというので、成長都市は、この3つが実現され成長するというのでしょうか。すべてが並列なのかもしれませんが、位置づけが以前より分かりにくくなった印象があります。「しあわせつづく」のイメージがつきにくいです。

成長都市の部分に経済のことも入れているため、成長するというはそういうことだと読み取れます。

#### 初谷会長

「つながり」をA、「かがやき」をB、「しあわせ」をCとすると、その3つがそれぞれにつづいていくとも読めるということです。私の理解は、「つながる」、「かがやく」が、そもそもしあわせにつながって、それがつづくということです。清水委員が言われるような解釈もできます。行政素案では、「つながる、かがやく、つづく」の3つの概念を大切にしたいということで、持続性という意味合いの「つづく」があったのですが、今回「しあわせつづく」と動詞的に使っているため、ニュアンスが少し変わったということです。受け取り方が多様になりうるフレーズになっています。

7ページで、取り組み方向が政策であることがこれで伝わるか、それが10ページの表で読み取れるかについては、いかがですか。

#### 事務局

各目標の下に文章があります。最初の段落に現状と理想、2段落目に基本的な方針、それによってめざす姿を3段落目に構成する形で記載しています。これらの文章そのものを政策として位置付けたいという思いで記載しており、それが読み取れる説明が必要だと認識しています。一般的に、政策は1行で表す言葉をイメージされがちですが、あえて文章にしています。目標に対する各施策の実現を横連携しながら、めざすというシンプルな縦と横の関係だけで基本構想を整理したいという思いがあったため、各目標に掲げた文章そのものを政策として位置付けたいということで、今回提示しています。

## 初谷会長

先ほど農野委員からご指摘があったように、例えば目標1には3つの段落があるため、第1段落の3行は「理想や課題」、第2段落の2行は「主な取り組みの方向」、第3段落の3行は「めざすまち」などの見出しをつけてはどうかと思います。このような見出しを各目標に入れてセットにして、これをもって政策とするという表現をどこかに入れてはどうかと思います。7ページに「また、この取り組み方向を本市の政策と位置付けます」とありますが、もっと分かりやすい方法で記載していただけたらという印象をもっています。

また、専門の委員の方々に意見を伺いたい点があります。政策の表現として、事務局の説明のような、理想や課題、取り組みの方向、めざすまちをパッケージとするというのはなじみますでしょうか。

## 田中副会長

あまり違和感はありません。市民に学問的なことを理解していただく必要はありません。ここで考えている政策を、階層性があるピラミッドで考えると、ピラミッドの頂点にくるゴールを柱として6つ立てています。それをめざすためにこのような施策を行うというのが、第6章「施策について」だと思います。その施策が中目的になって、これを実現するために個々の具体的な事業があります。階層性で説明するなら、このような書き方で理解できます。

## 初谷会長

10ページの表では、各目標を実現するピラミッドの頂点にあたる政策がこの文章全体ということで、取り組み方向が点線で囲んであり、施策が横断的に横たわっています。取り組み方向を点線で囲んでいる部分は、何も付記しなくても分かるでしょうか。例えば、目標1「未来の育ちを誰もが実感できるまち」で、各段落に小見出しを入れて、その小見出し3つをセットにしたものが、取り組み方向であるという表示が必要ではないでしょうか。それがあれば、7～9ページと10ページの表を見比べたときに、3つの段落すべてのまとめにあたる「取り組み方向」という見出しが10ページの点線の部分であることが分かります。また、各目標の本文の中にも、小見出し的に「取り組み方向」という文言が必要だと思います。田中副会長と農野委員の話、熊本委員の疑問をつなげると、そのような印象を持ちました。

## 事務局

7ページから9ページは、目標を書いています、「まちづくりの目標と取り組み方向」のところに、「また、この取り組み方向を本市の政策と位置付けます」と記載しています。そもそも、「取り組み方向」というのが何かということが分からないため、目標の下に「取り組み方向」を入れたいと思います。10ページの点線で囲んでいる部分が政策であるということが、この表からは読み取れないことが、意見をお聞きして分かりました。どこに

入れるかは考えますが、追記が必要だと思います。

### 初谷会長

10 ページの図に、「取り組み方向」という言葉だけが6つ並んでいますが、これが目標1とセットであることを丁寧に説明するためには、「目標1の取り組み方向」などのように記載したほうがよいです。その辺りを考慮して、あまり煩雑にならないよう、整理したほうがよいと思います。

続いて、11 ページの「共創と共生の地域づくり」です。ここは、表現について議論が多くあったところですが、私は、かなり議論を踏まえた書き方になっているという印象を受けています。

各部会での議論のウェイトで考えると、11 ページの上から4番目の「例えば、」の段落で、「様々な地域課題が浮き彫りになってきている」と記載している地域課題の例として、防災、子育て、高齢者を挙げていますが、これでよいでしょうか。これが第6次総合計画では地域課題でしょうか。

関係の深い清水委員と和田委員にお聞きしたいのですが、地域課題ということでコミュニティの話が地域づくりとして出ていますので、地域の定番の課題を分かりやすく挙げるなら、防災、子育て、高齢者でよいかどうか、ご意見を伺いたいと思います。

### 清水委員

一般的には防災、子育て、高齢者が大きなところだと思いますが、八尾市として考えた場合、部会の意見を振り返ると、外国人の問題や中小企業の主体が特徴的な地域課題に含まれてもよいと思います。ただし、「例えば、」ということで、そこにすべて書く必要があるかどうかは、議論したほうがよいと思います。

### 和田委員

「例えば、」なので、ここに入れるのは難しいと思います。最後のパラグラフに「地域のまちづくりにあたっては、地域住民、学生、企業や団体等」と入っています。第2部会の委員は、企業や金融機関の人の割合が高いので、議論の際に、「われわれの役割は」、「われわれは市民として考えてよいか」などの話がかかなり出ていました。共生の部分では、企業の方々も尊重したいと思います。清水委員も言われていましたが、外国人労働者や外国人の住民のことも、地域のまちづくりのところに入れる必要があると思います。

### 初谷会長

防災、子育て、高齢者のまとまった文章にならなくても、清水委員と和田委員の意見から、経済活動、地域の企業市民と言いますか、これらの共創が必要です。地域のまちづくりというと、校区まちづくり協議会の話にシフトしがちですが、企業との連携も話題に出たため、

工夫していただければと思います。どこに入れるかですが、外国人への目配りについての表現もあったほうがよいと思います。

次に人口問題についてです。第3部会でも指摘がありましたが、相当、元気のある想定になっており、「本当にこれでいくのですね」と思うところがあります。

#### 事務局

明るい展望にしています。八尾市の人口は転入者数と転出者数が均衡する状況になってきていることから、将来が明るいという展望を抱いており、強気で頑張りたいと思います。総務省のデータで全国と比較すると、日本人と全国籍では、八尾市は全国籍で優位になっているため、多文化共生が効いていると思います。在留資格との関係でも、実際に、八尾市の工場に外国人人材が入ってきているのを見ています。そのようなことから、あえて強気のまままでいくことにしました。転入転出者の中に外国人の数がカウントされていません。その他のところで、外国人が伸びています。全体としては死亡者も多いのですが、それを除けば、直近の状況では外国人が増えている分、人口が増えている状況となっています。

#### 初谷会長

12 ページの2段落目「近年では、」の3行の文章は知識がないと分かりにくいです。もっと分かりやすい表現を入れて、転出入の均衡について明るい材料が読み取れるようなニュアンスを書き加えてはどうでしょうか。

#### 事務局

平成20年代から社会増の傾向にやや転じているため、その辺りが分かりやすくなる言葉を加えるかどうかです。ずっと社会減できていましたが、統計的には八尾市は平成20年代から社会増の傾向に変わってきています。

#### 熊本委員

今の説明を聞くと、8年という期間を考えると人口の観点でも、「共創と共生の地域づくり」のところに、地域課題の1つとして外国人のことを考えて入れる必要があると思います。

#### 事務局

これからのまちづくりに、企業も含めて様々なところに関わるということで、11 ページの後段のあたりに入れると収まりが良いように思います。八尾市では実際に、外国人が生活や活動しております。コミュニケーションや意識面など難しいところがありますが、どう乗り越えるか、市民と共にとどのように進めていくかだと思います。

#### 初谷会長

11 ページの最後の段落に、外国人への表現を入れて、12 ページの人口の問題や社会増の問題に示唆できるものがあればよいと思います。

続いて14 ページからの第4章です。先ほど熊本委員から、15 ページにわがまち推進計画のことが抜けているという意見がありました。図8に入れることは難しいかもしれませんが、実際にローリングしてきたわけなので、15 ページでわがまち推進計画について、今後どのような関係で進行管理を行っていくかという表現は必要だと思います。

## 事務局

わがまち推進計画の根拠は、1 ページに記載のある「八尾市市民参画と協働のまちづくり基本条例」で、その中にわがまち推進計画を位置付けています。体系上、総合計画の中に組み込むわけではありません。条例の中で位置付けています。図の示し方としては、14 ページの図7がもっとも適しています。条例に基づく計画であることを説明する必要があるかどうか、悩ましいところです。そのような説明をすれば、体系上、条例に位置付ける計画なので、総合計画とは別ということが理解いただけると思っています。

## 初谷会長

そこが一番の問題です。あれだけ議論してきた地域のまちづくりの問題です。地域別計画があったので、第5次総合計画のふりかえりの最初の三角の図には、わがまち推進計画が堂々と入っています。しかし、図7では、わがまち推進計画が申し訳のように書かれています。事務局から説明があったように、「わがまち推進計画は総合計画とは別」と言った途端に、第5次総合計画から第6次総合計画になって地域別計画がなくなり、連動してわがまち推進計画も軽視されるようにならないかという懸念があります。わがまち推進計画は総合計画ではないものの「総合計画の構成と推進」という見出しの中でこれを記載する意味を踏まえると、15 ページにも何らかの形で表現を入れておかなければ、先ほどの危惧が出ると思います。

## 事務局

わがまち推進計画の今回の立ち位置は、わがまち推進計画が地域にできてきたことを受けて、総合計画では地域別計画を作らず、むしろ実施計画を中心にわがまち推進計画の実現に向けて行政がしっかり支えていくということです。「総合計画の推進」のところで、「わがまち推進計画の実現に向かっているかどうかを地域と共に把握する」というくだりを入れることで、きちんと行っていくという意思表示ができると考えています。

## 初谷会長

これは、田中副会長が長年に渡って大変尽力いただいている大事なことなので、ぜひご意見をいただきたいです。第5次総合計画の最初の頃は、まず行政主導で地域別計画を作り、

わがまち推進計画がその後から続きました。わがまち推進計画が繰り返されて、わがまち推進計画が主体的に推進計画を推進するのを、実施計画レベルで支えるという形に行政がしっかり連携するというくだりを入れていただきたいと思います。田中副会長はいかがですか。

#### 田中副会長

行政の立場も分かります。初谷会長が言われたように、総合計画が継続性の中で少しずつ改善する装置であるとすれば、八尾市がこの10年間やってきたコミュニティへの向き合い方は大きな特徴だと思います。ある種の矜持を示すべき箇所、誇るべきことだと思います。わがまち推進計画については、昨年度の第5次総合計画のふりかえりにおいても相当時間をかけて議論を行って意見を積み重ねてきました。譲れない部分かと思いますが、何らかの形で示すことが必要です。ここでフェードアウトする形をとってはならないと思います。

#### 事務局

まもなく令和2年度に入りますが、わがまち推進計画の改定のタイミングを迎えます。市長が変わっても校区まちづくり協議会の仕組みを継続、発展していく方向で調整しているところです。計画の推進の中で、わがまち推進計画を市民と共に進めていくという趣旨を書いていきたいと思っています。

#### 初谷会長

田中副会長が「矜持」とよい言葉を言われましたが、なし崩し的に消えるのは困ります。15ページの図8のように、年次的にこのようなローリングになっていくため、実施計画とわがまち推進計画の間のやり取りを支えるなどの表示を入れるべきだと思います。

#### 事務局

わがまち推進計画は、総合計画とは違う体系ですが、市民が作る計画であることが分かるよう、矢印などで工夫します。

### <2-2 基本計画（第5章）について>

#### 初谷会長

基本計画の第5章ですが、資料4のようにたくさんの意見が寄せられていますが、お一人ずつ意見を聞く時間がありません。基本構想での議論の中には、基本計画にも及ぶ意見もあります。その延長として、基本計画について順次ご意見をいただきたいと思います。田中副会長からお願いします。

#### 田中副会長

第1部会での議論の中でも、子どものいない層を地域コミュニティに巻き込んで地域課題を解決していくことは、重要な議論だったと思います。それ以外の部分も踏み込んで修正されています。資料4の14ページのNo.135がそれに当たります。修正案の、「②あらゆる主体が連携して活動し課題を解決する」の本文の4行目である、「～大勢の協力が必要であれば、そのことを周知し、できることをできる時間に参加してもらえよう、協力を求めていく必要があります」で消化されるかは、やや疑問が残るところです。

#### 初谷会長

もう少し言い方を変えると、18ページの文章の中に、子どもがいない人を想定し得るかということですか。

#### 田中副会長

その通りです。「大勢の協力が必要でないときは、どちらでもよい」ととらえられかねません。もっとよい書きぶりがないかと思います。

#### 事務局

家族の形態やライフスタイルなどと記載したほうがしっくりくるかもしれません。

#### 田中優副会長

その辺りの文言を入れたほうがよいと思います。

#### 事務局

今の案では、動員のように感じられるかもしれません。

#### 農野先生

19ページの「③活動の効果を検証する（ふりかえり）」ですが、ふりかえりの主体が誰なのかが分からないため、行政と各校区まちづくり協議会などの主体を書き込むほうがよいです。全体としては、「このようなことを大事する」ということが書かれていて共感できます。

#### 事務局

「共にふりかえりを行う」はどうでしょうか。

#### 農野先生

それがよいと思います。

## 事務局

協働のまちづくりということが根底にあるため、地域だけ、行政だけということではないと思います。

## 初谷会長

田中副会長が言われたように、18 ページの②で表現したいことは、地域づくりは、時間的にも労力的にも多大な貢献をしなければできないことではなく、できることをできるときに行うピンポイントの参加もお勧めですということだと思います。子どもがいない人や、時間的や労力的に制約がある人なども、「あらゆる主体が連携して活動し」という見出しに意図されていて、「自分にも関係する」と思っていただけの文章になっているかという疑問だと思います。

19 ページ「③活動の効果を検証する（ふりかえり）」での農野委員の指摘については、事務局が言っていたように修正したほうがよいと思います。

清水委員、第2部会の視点からいかがですか。

## 清水委員

先ほどからの繰り返しになりますが、「あらゆる主体」としては、外国人などにも目配りしていただきたいという意見がありました。18 ページの下から3行目の「校区内外で連携し」では、配慮していただいたと思いますが、校区同士のつながりについても、この辺りに入れてはどうかという意見がありました。「①対話するための開かれた場を大切にする」は、校区の中で校区まちづくり協議会などで行っていくというのは分かるのですが、「共創と共生の地域づくりの実践」ということなので、「校区同士もつながっていく必要があるということにも踏み込んでよい」という指摘がありました。

20 ページは全面的に改良されているので、自分自身読み切れていないかもしれませんが、忙しい人にも参加しやすい体制づくりや参画を広げる方向性を入れていただきたいと思います。今回、「体制」という言葉になっていますが、ネットワークの活用などの言葉に散りばめられていると思います。そのような指摘がありました。

## 和田委員

清水委員が言われた通りなので、特に付け加えることはありません。19 ページの2行目は、清水委員が言われるように、大事なことを入れていただいています。もっとも大事な「これまで関わる機会がなかった多様な」という、今まで関わる手段がなかった人や忙しくて関われなかったなど、機会を逸していた人がいかに関われるかということ、うまく表現していただいていると思います。それが20 ページの「実践の体制」につながっていると思います。その辺りも見やすくなっています。

## 初谷会長

私は20ページにまだ問題が残っていると思っています。第3部会でも、事務局に「どのように考えているか」という質問がありました。下から2つ目の段落ですが、「行政は」を主語として、「市民主体の活動に協力する」、「地域の課題解決や魅力向上を促進する」、「コーディネートを行う」、「支援を行う」と記載されています。第3部会では「コーディネートは誰が行うのか」という質問がありました。もともとの設立の趣旨では、校区まちづくり協議会が行うべきことですが、なぜ行政がコーディネートにすべて関わる形になったのですか。

## 事務局

行政は様々な団体や地域の人が知らない専門機関についての知識をもっているため、そのような団体と地域が連携して活動できるようなコーディネートができるという趣旨で、行政の役割として、「コーディネート」を記載しています。

## 初谷会長

心配しすぎかもしれませんが、20ページの2段落目の「これに基づき、」の部分に、校区まちづくり協議会の役割が記載されていますが、ここが、「校区まちづくり協議会は場づくりだけを行って、そこに入ってきてコーディネートするのは行政」と読めてしまうのではないかと懸念しています。「対話の場」は、今回、地域のまちづくりの見直しのキーワードとして出てきており、ふりかえりの評価でも使っています。開放性に努力が必要という反省があったため、今回、「対話の場」をしつらえて、広く様々な人が参加できるようにしなければならないことが明確に出ています。校区まちづくり協議会はそれを心がけるのですが、場を作るだけかということです。行政に仕切ってもらうのではなく、校区まちづくり協議会がコーディネートも行うのではないかと思うのですが、いかがですか。

## 田中副会長

総合計画と並行して、校区まちづくり協議会のあり方の検討会にも出ており、そこには校区まちづくり協議会の人も出てきています。校区まちづくり協議会が全体として、そこまで育ちきれていないのではないかと思います。校区まちづくり協議会は、本来、中間支援的な機能発揮を期待されてここまで来ています。それを実践できている校区もありますが、非常に少数派です。全体的に校区まちづくり協議会は、行政から様々な仕事の下りてきています。それをこなしていくことに汲々としている実態があります。校区まちづくり協議会をどうしていくかが、大きな課題です。行政の関わり方も再考が必要です。そのような意味で、下から2段落目の内容が盛り込まれているように思います。

## 初谷会長

そのような状況があります。田中副会長が言われたように、「本来あるべき姿に導いていくために、行政が当面コーディネートする」のようなニュアンス的なものが必要だと思えます。この文章だと、「ずっと行政がコーディネートしていく」とも読めます。

#### **事務局**

行政もずっとコーディネートしようと思っっているわけではありません。むしろコーディネートできるように、共に考え、共に動くという段階だと思います。この円形を見ると、わがまち推進計画を作って終わりと思えなくもありません。「企画、コーディネート等」は、本来は校区まちづくり協議会が行うものです。中には、地域の中で実践しているところもありますが、まだまだできていないところが多いため、そこに向けて共に考え、共にやっというところだと思います。

#### **農野委員**

コーディネートという言葉が、非常に抵抗があるようですが、ここはむしろ「地域課題の解決に向けた後方支援の在り方を検討する必要がある」ということだと思います。そのようなニュアンスに変えたほうがよいと思います。

#### **事務局**

後方支援という言葉がよいかどうかはありますが、主役は市民であり地域なので、そのような役割はあると思います。

#### **農野委員**

「地域課題の解決に向けた、地域のまちづくり力の向上支援」につなげてよいと思えます。

#### **田中副会長**

打ち出すべきことは、「校区まちづくり協議会に、依然として待ち受けの体制をとってほしくない」というメッセージです。主体的、自立的な機能発揮をするために、後方支援やサポートを行うという役割です。コーディネートと言うとかなり踏み込んだ形になってしまうので、相変わらず待ち受けの意識を持たれることが、私は怖いと思います。その辺りのメッセージは明確に打ち出すべきだと思います。

#### **初谷会長**

20 ページの下から4行目は、農野委員が言われたように、「地域課題の解決に向けた、地域のまちづくり力の向上支援や地域団体の組織力の向上支援」の中に、校区まちづくり協議会のコーディネート力の向上も含まれており、それをサポートする行政の役割も含まれて

いるなどにしたほうがよいと思います。この言葉が強く印象づけられます。図9も、行政のところに明確に、「企画、コーディネート等」は書き込まないほうがよいです。この図だと、「企画、コーディネート等」は、行政がしてくれる、行政がするというメッセージとしてとらえられかねないということです。

### <2-3 基本計画（第6章）について>

#### 初谷会長

本日、第6章についても意見交換を予定していますが、時間の関係で、第6章について、これだけは述べておきたいという意見がありましたら、お願いいたします。特に1ページの、「施策の見方と取り組み内容」は、実際に見ていただく人には大事なところですよ。まず1点目は、先ほど熊本委員から指摘があったように、1ページ目の目標1から6が書かれた表に、方向性の政策に当たるものをどのように表現すべきかという問題があります。この狭いところに書き切れないということであれば、少なくとも取り組みの方向性が政策としてこの中に入っていることを記載しておくべきだと思います。

#### 農野委員

1ページの施策11と19、20の網掛けは、どのような意味ですか。

#### 事務局

施策の名称を変えている部分です。専門用語的で分かりにくかったため、修正したほうがよいという意見を踏まえて変更しました。

#### 農野委員

目標1から6の順番に何か意味はありますか。

#### 事務局

八尾市として大事にしたいことということです。

#### 農野委員

大変難しい話をしていると思います。将来都市像の「つながり、かがやき、しあわせつづく成長都市八尾」というキーワードと1ページの目標は、ストレートには対応しないと思いますが、関連を考えると、「目標1 未来への育ちを誰もが実感できるまち」が「そだち」、「成長」、「目標2 もしもの時への備えがあるまち」が「しあわせ」、「目標3 世界に魅力が広がるまち」が「かがやく」、「目標4 日常の暮らしが快適で環境にやさしいまち」が「しあわせ」、「目標5 つながりを持ち自分らしさが実現できるまち」が「つながる」、「目標6 みんなの力でともに持続可能なまち」が「つづく」になります。そのよ

うに考えると、将来都市像は、理念を掲げる大事な宣言になります。目標1から6までが、バラバラとした印象で、もったいないです。このようにつなげることが妥当かどうかは分かりませんが、各目標が、「かがやく」にも「しあわせ」にも「つながる」にも入っているということもあります。難しい話をしていると理解していますが、一見したときに、対応はどのようなのかという印象があります。

#### 初谷会長

本来は、なぜこの6つなのかという説明もあったほうがよいです。農野委員が言われたように、目標の中には複数のキーワードに絡むものもあります。10ページの図に、「将来都市像」につながる大きな矢印があり、6つの目標が将来都市像につながっていくように描かれています。今、農野委員が言われたのは、「将来都市像を分解すると、目標1から6になるのではないか」ということで、この図のように、下から上への矢印という意味合いでよいのかどうかということにもなります。将来都市像を実現するために、目標1から6を実現するのですか。それとも、将来都市像イコール目標1から6に分解されるのでしょうか。分解されるとすれば、何かキーワードに対応するものがあるだろうという指摘です。図の作り方や表現など、本文と平仄を揃えることが必要だと思います。

#### 農野委員

「つながり、かがやく、しあわせつづく成長都市八尾」は「つながり、かがやく、しあわせ」で段落を落として、「つづく成長都市八尾」になるのではないかと思います。これは、俳句をされている人に聞いたほうがよいと思います。これを市民が見て、イメージできるかどうか、共感できるかどうかです。それが大事なので、このままでよいと思います。

#### 初谷会長

ただ今の農野委員の意見に絡めて言いますと、私は、むしろ逆転したほうがよいと思います。「つながる、かがやく、つづく」の3つがキーワードで、その3つを束ねたものが「しあわせ」で、それと「成長」をどうつなぐかです。「成長」は「都市の成長」になったので、「つながる、かがやく、つづく しあわせ」、この「しあわせ」の中に成長する都市八尾があるというのが、もともとのイメージとして提示されていたと思います。これを議論し始めると、かなり時間を要してしまいます。事務局にて検討をお願いします。

本日は、各部会の部会長、副部会長からの意見を伺いました。総じてよく修正を反映していただいていると思います。第6次総合計画としての、第5次総合計画からの連続性という点で、さらに、先ほどの「矜持を示すべき点」も、事務局で検討していただきたいところです。

### 3. その他

(1) 今後のスケジュールについて

事務局

(資料1 説明)

農野委員

3月19日は卒業式なので欠席となります。

和田委員

私も卒業式なので欠席です。

初谷先生

大変残念です。それまでに農野委員と和田委員に資料を報告できるよう、うまくスケジュールの管理をお願いします。

4. 開会

以上